

平成23年度

杉田玄白記念公立小浜病院改革プラン実績評価書

平成24年9月

杉田玄白記念公立小浜病院評価委員会

◎ はじめに

病院改革プラン（以下、「改革プラン」という。）は、平成19年12月に総務省において策定された「公立病院改革ガイドライン」に沿って平成21年3月に策定され、その取り組み状況についての点検・評価を行う為、評価委員会が設置された。

「杉田玄白記念公立小浜病院評価委員会」は、外部有識者、住民代表者等を含む5名の委員で構成され、平成23年度決算の状況を含め、改革プランの実施状況の点検・評価を実施した。

1. 評価区分の基準

「計画、実績」「改革プランにおける数値目標等（実績、目標）」「公立病院として今後果たすべき役割」について評価を行った。

評価は次の表のように4段階とし、それぞれの評価の基準は説明のとおりである。

評価	評価の基準
◎	計画、数値目標を大きく上回った
○	計画、数値目標をほぼ達成した
△	計画、数値目標をやや下回った
×	計画、数値目標を大きく下回った

2. 総合評価

今年度は昨年度来の評価結果に対する経過を踏まえた努力の成果が得られているように思われる。
プランと比較し、経常収支比率等の経営状況は改善傾向にあることは評価できる。

今後については、常勤医師ならびに研修医等の医師確保、看護師確保による診療機能の充実により、経営改善を図るとともに、地域の基幹病院としての役割を担っていただきたい。

経営形態については、組合内部の議論だけではなく関係自治体と協力しながら議論を深めていただきたい。

I. 「公立病院として今後果たすべき役割」

① 初期治療から高度特殊医療まで総合的に提供できる救急医療の提供

外来患者数は減少しているが、外来患者数の抑制は、国の医療政策の一環でもある。また、DPCの採用と入院患者数増によって増収となっており、良好な傾向として評価できる。

さらに、救急科専門医を1名増員により3名体制とし、救急車搬送患者に対応しており評価できる。

② 生活習慣病に適切に対応する医療提供

健診者数は横ばい状態であり、健診部を総合的にまとめることのできる医師が不在のために対応できていない部分がある。健診者数についての対応に向け、専従医師の確保に注力していただきたい。

③ 地域災害医療センターとしての医療機能の提供

DMATの活動、および各種の訓練・研修会への参加等の積極的な姿勢が評価できる。

今後も、災害拠点病院としての機能を果たすべく、期待したい。

③ へき地医療拠点病院としての機能の提供

無医地区への巡回診療、名田庄診療所への医師派遣などは、評価すべき取り組みである。

④ 小児医療・産科医療の確保

都市部においても小児科および産科の医師の不足する状況にもかかわらず、地方において小児科医2名、産科医2名を維持しながら地域医療に貢献していることは高く評価できる。

⑤ 研修機能の充実

地域性の問題を解消し医療知識の向上を図ることができるような体制が整備され、利用されていることは評価できる。

臨床研修医についても23年度も引き続きフルマッチであるとともに、認定看護師の育成等に対する研修体制の推進についても評価できる。

⑥ 看護師の養成・確保

7:1看護体制の維持および看護師国家試験合格率が7年間連続100パーセントを維持していることについては、高く評価できる。

今後は看護学生の確保だけでなく、卒業生の地元への定着についても取り組むことが望まれる。

⑦ 地域医療機関との連携の推進

紹介率・逆紹介率の向上に対する取り組みと実績については評価できるところである。

高度医療施設整備事業で設置されたPETの利用については、いわゆるメディカルツーリズム、脳ドック等の健診業務で利用率を向上するのみならず、舞鶴市内の病院と協同利用する体制を整えることが期待される。

総合的診療機能を有する当病院ではあらゆる診療科の医師が相当数いなくてはならないが、糖尿病、循環器といっ

た特化した診療機能を充実させる必要があるのではないか。

II. 「経費削減・抑制対策」

① 給与費の抑制

医師、看護師を増員し入院患者の確保を図っており、職員数増による給与費の増は理解できる。また、現在、清掃、警備、給食など委託の可能な業務について実施していく方針は評価できる。今後、電話交換手を含め、退職等による人員計画において外部委託等を検討していくことが期待される。

改革プランでは給与費の増加抑制が計画されており、今後は給与費増に対応した改革プランの再作成の必要性があるのではないか。

② 経費の削減

薬品・診療材料等、物品管理の効率化に対する努力は評価できる。

後発品の使用、フィルムレスによる材料費の減、価格交渉による経費の減など病院独自の改善効果が見られる。

III. 「収入増加・確保対策」

① 急性期病院として平均在院日数の短縮に努め、効率的な病床運営を行い病床利用率を高める。

クリニカルパスの活用等により、病床利用率が向上したにも関わらず、平均在院日数の増が抑制されている点は評価できる。

② 亜急性期病床を 8 床増床し、入院収益の増収を図る。(年間 21,900 千円)

亜急性期病床 20 床の利用率は 90 パーセント以上を維持し、入院収益の増収を図ったことは評価できる。病院全体として適正な病床構成である。

- ③ 初診時特定療養費や文書料等の見直しを図る。

初診時特定療養費・一部診断書料金の見直しにより増収を図ったことは評価できる。

- ④ 診療報酬制度に的確に対応するため、研修等を実施する。

DPCセミナー、診療報酬改定説明会への参加の一方、病院内各職種に向けた講習会の開催、経営意識の啓蒙活動については評価できる。

- ⑤ 良質な医療の提供と収益性の向上を図るため、急性期入院医療における診断群分類別包括評価（DPC）準備病院に平成20年度申請した。

平成22年度より、DPC請求を開始し収入増加を確保したこと、職員の診療情報管理士資格取得の為の研修方針について評価できる。

- ⑥ 地域医療支援病院の承認が得られることにより、入院収益の増収が見込めることから承認申請に向け検討を開始した。

地域医療支援病院の施設認定基準の一つである、紹介率・逆紹介率は非常に高く設定されており、現在の地域支援病院の制度・基準では紹介率の数値のために認定は不可能だと思われる。

小浜市の市街地は別として、車による受診であれば、近接性においては診療所も当院も同一の条件となってしまう、中核病院へ直接来院することとなり、紹介状なしで受診を求めてしまうことも考えられる。

また、紹介状を持って来院しても、当院が中核病院であるが故に、紹介された診療科以外の科で受診していると、初診料が算定できず紹介患者として算定できない場合があるため、紹介率の算定について難しいのが現状である。

地域医療支援病院の承認基準である紹介率については、それぞれの地域の医療環境も考慮し、地域の状況に見合った基準の見直しが検討されているが、紹介率・逆紹介率の増加に向けた一定の取り組みは評価できる。

なお、紹介率・逆紹介率以外の認定基準は十分に満たしていると認められる。

改革プランにおける数値目標等（実績・目標）

（単位：百万円）

収支	平成22年度 決算	平成23年度 プラン (A)	平成23年度 決算 (B)	決算-プラン B-A	平成24年度 プラン
病院事業収益	6,641	6,668	6,861	193	6,772
うち外来収益	1,654	1,588	1,626	38	1,588
うち入院収益	3,966	4,137	4,150	13	4,183
うち医業外収益	617	618	626	8	673
病院事業費用	7,162	7,436	7,371	▲ 65	7,231
うち給与費	3,252	3,292	3,387	95	3,270
うち材料費	1,290	1,430	1,273	▲ 157	1,431
うち経費	741	744	723	▲ 21	750
うち減価償却費	773	781	737	▲ 44	723
純損益	▲ 521	▲ 768	▲ 510	258	▲ 459
累積欠損金	2,906	4,070	3,416	▲ 654	4,441
資金収支	252	13	227	214	264
不良債務	-	-	-	-	-

財務に係る数値目標	平成22年度 決算	平成23年度 プラン (A)	平成23年度 決算 (B)	決算-プラン B-A	平成24年度 プラン	自己評価	委員会評価
経常収支比率	92.7	89.7	93.1	3.4	93.7	○	○
（減価償却費を除く）	103.9	100.2	103.4	3.2	104.1	○	○
医業収支比率	90.3	89.1	92.2	3.1	91.9	○	○
職員給与費率	54.0	54.4	54.3	▲ 0.1	53.6	△	△
病床利用率（一般）	76.4	80.0	81.7	1.7	81.0	○	○
病床利用率（療養）	82.1	90.0	90.3	0.3	90.0	○	○
病床利用率（全体）	77.6	81.6	82.5	0.9	82.2	○	○
外来患者数（1日平均）	776.0	810.0	759.0	▲ 51.0	810.0	△	○

平成23年度 杉田玄白記念公立小浜病院改革プラン評価シート

公立病院として今後果たすべき役割

嶺南医療圏・若狭地域の基幹病院として、政策的医療等の提供や病診連携の中心的役割を果たし、地域医療水準の維持、向上に努める。							
役割と計画	実 績			進捗の判断	自己評価	委員会評価	
① 初期治療から高度特殊医療まで総合的に提供できる救急医療の提供		平成21年度	平成22年度	平成23年度	①外来患者数は「かかりつけ医制度」導入後年々減少傾向にあるが、入院患者数は、年々増加しており、入院収益は増加した。 ②平成22年度は、救急科専門医師が2名であったが、平成23年度は3名に増員したことにより救急医療体制がより充実した。 ③救急取扱患者数・救急車搬送件数共に増加となっており、地域の救急医療に貢献している。	○	○
	外来延患者数	191,767人	188,452人	184,388人			
	外来収益	1,614,242千円	1,654,157千円	1,625,840千円			
	入院延患者数	117,967人	127,523人	135,951人			
	入院収益	3,422,810千円	3,965,997千円	4,149,792千円			
	救急取扱患者数	12,540人	12,500人	13,697人			
	救急車搬送件数	1,689件	1,908件	2,015件			
② 生活習慣病に適切に対応する医療の提供		平成21年度	平成22年度	平成23年度	①健診者数、要医療指摘者ともに前年と同程度であった。 ②専従の医師確保に苦慮している。 ③平成24年度より、きょうかい健保の検診委託業務を開始した。	△	△
	健診者数	908人	955人	950人			
	うち要医療指摘者数	571人	604人	605人			
	健診収益	47,988,008円	49,098,661円	49,146,087円			

役割と計画	実績	進捗の判断	自己評価	委員会評価																																														
③ 地域災害医療センターとしての医療機能の提供	3月～5月 東日本大震災にて救護班派遣 (宮城県へ合計4班 計20名) 8月 福井県総合DMAT実働訓練参加(若狭町 6名参加) 9月 中部DMAT実働訓練(三重県 台風の為に中止) DMAT隊員の技能維持研修参加(静岡県1名) 10月 トリアージ研修会(小浜病院会場 22名受講) 近畿府県合同防災訓練に参加。(兵庫県 5名参加) 11月 DMAT隊員の技能維持研修参加(福井県 4名参加) 2月 福井大学小淵Drによる講演会開催 (緊急被ばく医療についての講演) (職員81名、外部関係機関11名参加) 3月 福井県原子力防災総合訓練参加(5名参加)	DMATは3チーム相当の隊員を確保し、東日本大震災での救護班の派遣をスムーズに実施することができ、被災地への救援活動に大きく貢献した。 DMAT資機材点検・勉強会については随時実施するとともに、各種の研修会・講習会へのインストラクター派遣を行っている。 平成23年度にはDMAT3チーム分の資機材の購入を行った。	◎	◎																																														
④ へき地医療拠点病院としての機能の提供	<table border="1" data-bbox="488 735 1211 855"> <thead> <tr> <th></th> <th>平成21年度</th> <th>平成22年度</th> <th>平成23年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>巡回診療日数</td> <td>168日</td> <td>168日</td> <td>168日</td> </tr> <tr> <td>延患者数</td> <td>1,359人</td> <td>1,265人</td> <td>1,093人</td> </tr> </tbody> </table>		平成21年度	平成22年度	平成23年度	巡回診療日数	168日	168日	168日	延患者数	1,359人	1,265人	1,093人	へき地医療拠点病院として、無医地区への巡回診療を担当しているが、地域の過疎化により受診者は減少している。しかし、交通手段の乏しい地区への定期的な診療は、地域医療に大きく貢献している。 また、名田庄診療所の要請により医師を派遣した。	○	○																																		
	平成21年度	平成22年度	平成23年度																																															
巡回診療日数	168日	168日	168日																																															
延患者数	1,359人	1,265人	1,093人																																															
⑤ 小児医療・産科医療の確保	<table border="1" data-bbox="488 943 1211 1374"> <thead> <tr> <th></th> <th>平成21年度</th> <th>平成22年度</th> <th>平成23年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">小児医療</td> <td>外来延患者数</td> <td>16,581人</td> <td>16,128人</td> <td>17,152人</td> </tr> <tr> <td>入院延患者数</td> <td>1,408人</td> <td>1,237人</td> <td>1,650人</td> </tr> <tr> <td>外来・入院収益</td> <td>134,825千円</td> <td>130,557千円</td> <td>148,557千円</td> </tr> <tr> <td rowspan="7">産科医療</td> <td>外来延患者数</td> <td>7,299人</td> <td>8,053人</td> <td>7,439人</td> </tr> <tr> <td>入院延患者数</td> <td>2,869人</td> <td>3,280人</td> <td>3,491人</td> </tr> <tr> <td>外来・入院収益</td> <td>126,089千円</td> <td>152,302千円</td> <td>161,893千円</td> </tr> <tr> <td>正常分娩</td> <td>162件</td> <td>121件</td> <td>110件</td> </tr> <tr> <td>異常分娩</td> <td>14件</td> <td>56件</td> <td>77件</td> </tr> <tr> <td>帝王切開</td> <td>44件</td> <td>46件</td> <td>44件</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>220件</td> <td>223件</td> <td>231件</td> </tr> </tbody> </table>		平成21年度	平成22年度	平成23年度	小児医療	外来延患者数	16,581人	16,128人	17,152人	入院延患者数	1,408人	1,237人	1,650人	外来・入院収益	134,825千円	130,557千円	148,557千円	産科医療	外来延患者数	7,299人	8,053人	7,439人	入院延患者数	2,869人	3,280人	3,491人	外来・入院収益	126,089千円	152,302千円	161,893千円	正常分娩	162件	121件	110件	異常分娩	14件	56件	77件	帝王切開	44件	46件	44件	計	220件	223件	231件	地方の医療機関で医師不足が深刻化する中、小児科医2名、産科医2名を維持しながら地域医療を担っている状況にある。 小児医療については、休日の小児医療の確保の他、嶺南地域の小児療育医療に取り組んでおり、平成24年度内に小児療育施設の建設を予定している。 産科医療では、地域の妊産婦が安心して分娩できるよう医療体制を維持していく。	○	○
	平成21年度	平成22年度	平成23年度																																															
小児医療	外来延患者数	16,581人	16,128人	17,152人																																														
	入院延患者数	1,408人	1,237人	1,650人																																														
	外来・入院収益	134,825千円	130,557千円	148,557千円																																														
産科医療	外来延患者数	7,299人	8,053人	7,439人																																														
	入院延患者数	2,869人	3,280人	3,491人																																														
	外来・入院収益	126,089千円	152,302千円	161,893千円																																														
	正常分娩	162件	121件	110件																																														
	異常分娩	14件	56件	77件																																														
	帝王切開	44件	46件	44件																																														
	計	220件	223件	231件																																														

役割と計画	実績	進捗の判断	自己評価	委員会評価																																															
⑥ 研修機能の充実	<p>①研修環境整備として医師、看護師向け各種医療用シミュレーターを平成22年度に購入し、研修に利用している。</p> <p>②TV会議システムを導入し、福井大学病院、福井県立病院など福井県内の7病院を回線で繋ぎ、双方向通信により他病院との会議・勉強会の開催や講演会などの受講が、当院に居ながら可能になり、継続的に利用している。</p> <p>③研修医については、23年度も引き続きフルマッチであり、研修修了者2名が後期研修に残った。</p> <p>④医師の国内研修制度を整備し、医師1名が研修をおこなった。</p> <table border="1" data-bbox="488 469 1211 900"> <thead> <tr> <th colspan="2"></th> <th>平成21年度</th> <th>平成22年度</th> <th>平成23年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="5">学会出席</td> <td>医師</td> <td>160</td> <td>156</td> <td>228</td> </tr> <tr> <td>看護師</td> <td>158</td> <td>162</td> <td>97</td> </tr> <tr> <td>医療技術員</td> <td>57</td> <td>57</td> <td>75</td> </tr> <tr> <td>事務、他</td> <td>231</td> <td>124</td> <td>72</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>606</td> <td>499</td> <td>472</td> </tr> <tr> <td rowspan="4">臨床研修医</td> <td>病院単独</td> <td>4</td> <td>5</td> <td>7</td> </tr> <tr> <td>たすきがけ医科</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>” 歯科</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>6</td> <td>7</td> <td>9</td> </tr> <tr> <td>救急救命士研修</td> <td>5</td> <td>14</td> <td>12</td> </tr> </tbody> </table>			平成21年度	平成22年度	平成23年度	学会出席	医師	160	156	228	看護師	158	162	97	医療技術員	57	57	75	事務、他	231	124	72	計	606	499	472	臨床研修医	病院単独	4	5	7	たすきがけ医科	2	2	1	” 歯科	0	0	1	計	6	7	9	救急救命士研修	5	14	12	<p>①新人はもとより職場復帰者の研修においても、より安全に技術の向上が図れる体制が整った。</p> <p>②地域性の問題を解消し医療知識の向上が図れるようになった。現在は毎週金曜日に福井大学の研修医・医療従事者向けコアレクチャーなどを受講している。</p> <p>③今後も研修医の指導を充実させ、研修医を確保・定着を図る。</p> <p>④医師の技術習得・他病院での研修に対する支援制度確立を図った。</p> <p>⑤看護師については、認定看護師（慢性呼吸器）の研修に1名参加。専任教員研修に1名参加。平成24年度においても、専任教員研修2名、助産師学校へ1名の長期研修を予定しており、今後は看護師の研修制度を推進していく予定である。</p>	○	○
		平成21年度	平成22年度	平成23年度																																															
学会出席	医師	160	156	228																																															
	看護師	158	162	97																																															
	医療技術員	57	57	75																																															
	事務、他	231	124	72																																															
	計	606	499	472																																															
臨床研修医	病院単独	4	5	7																																															
	たすきがけ医科	2	2	1																																															
	” 歯科	0	0	1																																															
	計	6	7	9																																															
救急救命士研修	5	14	12																																																
⑦ 看護師の養成・確保	<p style="text-align: right;">(単位：人)</p> <table border="1" data-bbox="488 975 1211 1251"> <thead> <tr> <th colspan="2"></th> <th>平成21年度</th> <th>平成22年度</th> <th>平成23年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">看護師</td> <td>新採用</td> <td>21</td> <td>21</td> <td>19</td> </tr> <tr> <td>退職</td> <td>21</td> <td>13</td> <td>16</td> </tr> <tr> <td>増減</td> <td>0</td> <td>8</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">看護学生</td> <td>入学生</td> <td>25</td> <td>33</td> <td>37</td> </tr> <tr> <td>卒業生</td> <td>17</td> <td>22</td> <td>20</td> </tr> <tr> <td>小浜病院就職者</td> <td>11</td> <td>14</td> <td>6</td> </tr> </tbody> </table>			平成21年度	平成22年度	平成23年度	看護師	新採用	21	21	19	退職	21	13	16	増減	0	8	3	看護学生	入学生	25	33	37	卒業生	17	22	20	小浜病院就職者	11	14	6	<p>①看護師の確保については、7:1看護体制を維持するための人数確保に努力している。引き続き、若狭高看の卒業生を確保するとともに、他の看護学校・看護大学の新卒者や潜在看護師の確保を図る。潜在看護師の掘り起こしの為、看護師募集の新聞折り込みを行った。</p> <p>②看護師の養成については、7年連続で国家試験合格率が100%の実績を残せた。今後も、学生の獲得を図る。</p>	△	△																
		平成21年度	平成22年度	平成23年度																																															
看護師	新採用	21	21	19																																															
	退職	21	13	16																																															
	増減	0	8	3																																															
看護学生	入学生	25	33	37																																															
	卒業生	17	22	20																																															
	小浜病院就職者	11	14	6																																															

役割と計画	実 績			進捗の判断	自己評価	委員会評価																				
⑧ 地域医療機関との連携の推進	<table border="1" data-bbox="488 196 1214 395"> <thead> <tr> <th></th> <th>平成21年度</th> <th>平成22年度</th> <th>平成23年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>紹介患者数</td> <td>3,309人</td> <td>3,327人</td> <td>3,597人</td> </tr> <tr> <td>逆紹介患者数</td> <td>1,918人</td> <td>2,483人</td> <td>2,258人</td> </tr> <tr> <td>紹介率</td> <td>20.6%</td> <td>22.4%</td> <td>25.8%</td> </tr> <tr> <td>逆紹介率</td> <td>15.4%</td> <td>20.7%</td> <td>19.7%</td> </tr> </tbody> </table>				平成21年度	平成22年度	平成23年度	紹介患者数	3,309人	3,327人	3,597人	逆紹介患者数	1,918人	2,483人	2,258人	紹介率	20.6%	22.4%	25.8%	逆紹介率	15.4%	20.7%	19.7%	<p>内科の他に、整形外科を紹介制にし、紹介率・逆紹介率を上げる努力の結果、紹介率で3.4%増加した。</p> <p>地域の医療機関との連携について連絡・協議を行う体制作りに取り組み、紹介率、逆紹介率の向上、高額医療機器・病床の共同利用等、地域の基幹病院としての機能の向上に取り組んでいきたい。</p>	○	○
	平成21年度	平成22年度	平成23年度																							
紹介患者数	3,309人	3,327人	3,597人																							
逆紹介患者数	1,918人	2,483人	2,258人																							
紹介率	20.6%	22.4%	25.8%																							
逆紹介率	15.4%	20.7%	19.7%																							

経費削減・抑制対策	実 績	進捗の判断	自己評価	委員会評価																																	
<p>① 給与費の抑制</p> <ul style="list-style-type: none"> 業務委託・機械化することにより、給与費の抑制を図る。 医師・看護師を除く職種については、原則として増員しない。 	<p>(人数は4月1日付)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>平成21年度</th> <th>平成22年度</th> <th>平成23年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="5">職員数</td> <td>医 師</td> <td>38 (6) 人</td> <td>43 (7) 人</td> <td>43 (8) 人</td> </tr> <tr> <td>看 護 師</td> <td>230 (66) 人</td> <td>230 (68) 人</td> <td>241 (74) 人</td> </tr> <tr> <td>医 療 技 術 員</td> <td>67 (4) 人</td> <td>70 (4) 人</td> <td>68 (5) 人</td> </tr> <tr> <td>事 務 ・ 他</td> <td>99 (28) 人</td> <td>97 (25) 人</td> <td>95 (31) 人</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>434 (104) 人</td> <td>440 (104) 人</td> <td>447 (118) 人</td> </tr> <tr> <td>給 与 費</td> <td>3,152,564千円</td> <td>3,252,216千円</td> <td>3,386,602千円</td> </tr> <tr> <td>対医業収益比 (%)</td> <td>58.3%</td> <td>54.0%</td> <td>54.3%</td> </tr> </tbody> </table>		平成21年度	平成22年度	平成23年度	職員数	医 師	38 (6) 人	43 (7) 人	43 (8) 人	看 護 師	230 (66) 人	230 (68) 人	241 (74) 人	医 療 技 術 員	67 (4) 人	70 (4) 人	68 (5) 人	事 務 ・ 他	99 (28) 人	97 (25) 人	95 (31) 人	計	434 (104) 人	440 (104) 人	447 (118) 人	給 与 費	3,152,564千円	3,252,216千円	3,386,602千円	対医業収益比 (%)	58.3%	54.0%	54.3%	<p>①職員数は主として医師、看護師を増員し、入院患者の確保を図っている。</p> <p>②給与費は主に法定福利費等の増加により、対医療収益比で増加した。</p> <p>③業務委託の拡大は、職員の退職の状況等を考慮しながら引き続き検討する。</p>	○	○
	平成21年度	平成22年度	平成23年度																																		
職員数	医 師	38 (6) 人	43 (7) 人	43 (8) 人																																	
	看 護 師	230 (66) 人	230 (68) 人	241 (74) 人																																	
	医 療 技 術 員	67 (4) 人	70 (4) 人	68 (5) 人																																	
	事 務 ・ 他	99 (28) 人	97 (25) 人	95 (31) 人																																	
	計	434 (104) 人	440 (104) 人	447 (118) 人																																	
給 与 費	3,152,564千円	3,252,216千円	3,386,602千円																																		
対医業収益比 (%)	58.3%	54.0%	54.3%																																		
<p>② 経費の削減</p> <ul style="list-style-type: none"> 診療材料の購入は「診療材料検討委員会」で充分審議し、安価な材料に変更可能なものは変更する。また、物品の一括管理 (SPD) の実施により診療材料等を定数管理しているが使用状況の確認を一層強化し、実績の2%削減を目指す。薬品費の削減を図る。 	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>平成21年度</th> <th>平成22年度</th> <th>平成23年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>薬 品 費</td> <td>639,210千円</td> <td>643,067千円</td> <td>644,914千円</td> </tr> <tr> <td>対医業収益比 (%)</td> <td>11.8%</td> <td>10.7%</td> <td>10.7%</td> </tr> <tr> <td>診 療 材 料 費</td> <td>526,874千円</td> <td>539,696千円</td> <td>512,801千円</td> </tr> <tr> <td>対医業収益比 (%)</td> <td>9.8%</td> <td>9.0%</td> <td>8.5%</td> </tr> <tr> <td>経 費</td> <td>693,477千円</td> <td>740,554千円</td> <td>722,864千円</td> </tr> <tr> <td>対医業収益比 (%)</td> <td>12.8%</td> <td>12.3%</td> <td>11.9%</td> </tr> <tr> <td>う ち 委 託 費</td> <td>373,997千円</td> <td>388,408千円</td> <td>385,090千円</td> </tr> </tbody> </table>		平成21年度	平成22年度	平成23年度	薬 品 費	639,210千円	643,067千円	644,914千円	対医業収益比 (%)	11.8%	10.7%	10.7%	診 療 材 料 費	526,874千円	539,696千円	512,801千円	対医業収益比 (%)	9.8%	9.0%	8.5%	経 費	693,477千円	740,554千円	722,864千円	対医業収益比 (%)	12.8%	12.3%	11.9%	う ち 委 託 費	373,997千円	388,408千円	385,090千円	<p>①薬品費削減を図るため後発品の使用を拡大している。入院収益の増に比較し、薬品費の伸びは少ない。</p> <p>②診療材料費削減を図るため、同等品で安価なものへ切替を行なうと伴に、CT・MRI撮影時のフィルムレス化を図り、対医業収益比で0.5%改善できた。</p> <p>③経費については、修繕費・保険料などについて業者交渉による削減を行っている。</p>	○	○	
	平成21年度	平成22年度	平成23年度																																		
薬 品 費	639,210千円	643,067千円	644,914千円																																		
対医業収益比 (%)	11.8%	10.7%	10.7%																																		
診 療 材 料 費	526,874千円	539,696千円	512,801千円																																		
対医業収益比 (%)	9.8%	9.0%	8.5%																																		
経 費	693,477千円	740,554千円	722,864千円																																		
対医業収益比 (%)	12.8%	12.3%	11.9%																																		
う ち 委 託 費	373,997千円	388,408千円	385,090千円																																		

収入増加・確保対策	実績	進捗の判断	自己評価	委員会評価																
① 急性期病院として平均在院日数の短縮に努め、効率的な病床運営を行い病床利用率を高める。	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>平成21年度</th> <th>平成22年度</th> <th>平成23年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>病床利用率(全体)</td> <td>71.8%</td> <td>77.6%</td> <td>82.5%</td> </tr> <tr> <td>平均在院日数</td> <td>17日</td> <td>16日</td> <td>16日</td> </tr> </tbody> </table>		平成21年度	平成22年度	平成23年度	病床利用率(全体)	71.8%	77.6%	82.5%	平均在院日数	17日	16日	16日	救急科での1泊入院、クリニカルパス等の活用により、平均在院日数は低く推移している。病床利用率も、平成22年度77.6%から平成23年度82.5%と向上している。平成23年4月に、一般病床の休床25床のうち10床を再稼働し、入院収益の増収を図っている。今後の計画として、DPCの分析による単価増、病床利用率の向上により入院収入の増加を図りたい。	◎	◎				
	平成21年度	平成22年度	平成23年度																	
病床利用率(全体)	71.8%	77.6%	82.5%																	
平均在院日数	17日	16日	16日																	
② 亜急性期病床を8床増床し、入院収益の増収を図る。(年間 21,900千円)	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>平成21年度</th> <th>平成22年度</th> <th>平成23年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>亜急性期病床</td> <td>20床</td> <td>20床</td> <td>20床</td> </tr> <tr> <td>1日平均患者数</td> <td>18.1人</td> <td>18.1人</td> <td>18.3人</td> </tr> <tr> <td>病床利用率</td> <td>90.5%</td> <td>90.4%</td> <td>91.3%</td> </tr> </tbody> </table>		平成21年度	平成22年度	平成23年度	亜急性期病床	20床	20床	20床	1日平均患者数	18.1人	18.1人	18.3人	病床利用率	90.5%	90.4%	91.3%	亜急性期病床の増床については、診療報酬制度並びに一般、療養等の病床の運営状況と、患者の病態等の状況を踏まえ検討していく。	○	○
	平成21年度	平成22年度	平成23年度																	
亜急性期病床	20床	20床	20床																	
1日平均患者数	18.1人	18.1人	18.3人																	
病床利用率	90.5%	90.4%	91.3%																	
③ 初診時特定療養費や文書料等の見直しを図る。	平成23年12月より、初診時特定療養費・一部診断書料金について県内の病院料金を考慮し増額改定した。	平成23年度において、手数料収益は7,718千円の増収となった。	○	○																
④ 診療報酬制度に的確に対応するため、研修等を実施する。	(平成23年度診療報酬関係研修会参加状況) 診療情報管理士専門課程 2名参加 DPC経営セミナー 13名参加 DPC分析セミナー 1名参加 診療情報管理士DPCコース 1名参加 第18回診療情報管理実務研修会 1名参加 日本診療情報管理士会東海・北陸・近畿地区研修会 1名参加 県ICDコーディング勉強会 3名参加 診療報酬改定説明会 14名参加(各地にて開催) 経営改善研修会(院内) 2回開催 診療報酬改正説明会(院内) 1回開催	医師をはじめ、看護師、医療技術員に対しても、経営改善に向けた院内講習会を実施した。今後は更に事務部において研修、情報収集、分析を行い各職種に対し問題提起すると同時に、適切なコーディング等によりDPCを有効に活用し収益増を目指す。 平成24年度診療報酬改定においても混乱なく対応できた。	○	○																

収入増加・確保対策	実績	進捗の判断	自己評価	委員会評価																				
⑤ 良質な医療の提供と収益性の向上を図るため、急性期入院医療における診断群分類別包括評価（DPC）準備病院に平成20年度申請した。	<p>(平成22年度) 平成22年7月よりDPC請求開始。</p> <p>(平成23年度) 職員2名が診療情報管理士の専門課程を受講中。</p>	<p>(平成23年度) DPC請求額は出来高換算と比較し、平成23年度において、月額平均1,050万円(3.1%)の増収となった。</p>	○	○																				
⑥ 地域医療支援病院の承認が得られることにより、入院収益の増収が見込めることから承認申請に向け検討を開始した。	<table border="1" data-bbox="488 507 1214 705"> <thead> <tr> <th></th> <th>平成21年度</th> <th>平成22年度</th> <th>平成23年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>紹介患者数</td> <td>3,309人</td> <td>3,327人</td> <td>3,597人</td> </tr> <tr> <td>逆紹介患者数</td> <td>1,918人</td> <td>2,483人</td> <td>2,258人</td> </tr> <tr> <td>紹介率</td> <td>20.6%</td> <td>22.4%</td> <td>25.8%</td> </tr> <tr> <td>逆紹介率</td> <td>15.4%</td> <td>20.7%</td> <td>19.7%</td> </tr> </tbody> </table>		平成21年度	平成22年度	平成23年度	紹介患者数	3,309人	3,327人	3,597人	逆紹介患者数	1,918人	2,483人	2,258人	紹介率	20.6%	22.4%	25.8%	逆紹介率	15.4%	20.7%	19.7%	<p>内科の他に、整形外科を紹介制にし、紹介率・逆紹介率を上げる努力の結果、紹介率で3.4%増加した。</p> <p>地域の医療機関との連携について連絡・協議を行う体制作りに取り組み、紹介率、逆紹介率の向上、高額医療機器・病床の共同利用等、地域の基幹病院としての機能の向上に取り組んでいきたい。</p>	△	△
	平成21年度	平成22年度	平成23年度																					
紹介患者数	3,309人	3,327人	3,597人																					
逆紹介患者数	1,918人	2,483人	2,258人																					
紹介率	20.6%	22.4%	25.8%																					
逆紹介率	15.4%	20.7%	19.7%																					

杉田玄白記念公立小浜病院評価委員会 委員名簿

区分	氏名	所属団体・役職等
委員長	白髪 昌世	広島国際大学医療福祉学部医療経営学科教授
委員	中塚 安治	元小浜市副市長
委員	吉井 正雄	小浜医師会 会長
委員	坪内 定和	小浜市民生部長
委員	宮脇 美恵子	小浜市連合婦人会 会長

杉田玄白記念公立小浜病院評価委員会 開催日

平成24年9月12日（水） 午後6時より 杉田玄白記念公立小浜病院 9階会議室